

戦史叢書

# 南東方面海軍作戦

〈2〉

—ガ島撤収まで—

防衛庁防衛研修所

戦史室 著

朝雲新聞社

昭和五十年八月一日印刷  
昭和五十年八月五日発行

戦史叢書 南東方面海軍作戦〈2〉

―ガ島撤収まで―

著作者 防衛庁防衛研修所戦史室

発行者 中 島 義 雅

印刷所 東京印刷株式会社

発行所 株式会社朝雲新聞社

東京都港区芝栄町九 光輪会館

振替口座東京九一七六〇〇番

電話(436)〇二八六一〇二八八番

乱丁本落丁本はお取替えいたします。

飛行機隊編成調書			所轄	翔鶴	(行動番號 17.10.26)	戦闘種別	雷撃	空襲				
實施年月日		任務			備考							
昭和 17 年 10 月 26 日		第一次 敵航空母艦攻撃			<input type="checkbox"/> 總指揮官	<input type="checkbox"/> 大隊長	<input type="checkbox"/> 中隊長	<input type="checkbox"/> 小隊長	<input type="checkbox"/> 機長			
大隊	中隊	小隊	機種	主操	主偵察	先電通信員	先搭發員	消耗兵器	被害	効果	記事	
編	40	2	1	少佐 自爆戦死	飛曹長 自爆戦死	飛曹 自爆戦死						
				村田重治	菅藤政二	水木徳信						
		3	1	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死						
				滝沢友一	松島正	相澤光明						
		4	2	中尉	飛曹長	飛曹						
				井上福治	川村善作	萩谷義人男						
	5	3	1	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死						
				鈴木武雄	松村努	堀井孝行						
	41	2	1	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死						
				岡崎行男	伊藤光義	安部晃						
				飛曹	飛曹	飛曹						
		3	1	1	飛曹	飛曹長	飛曹					
行友一人					栗田厚吉	春原京治						
飛曹					飛曹長	飛曹						
42	2	1	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死							
			萩原末二	茶田正信	渡辺鈴雄							
			飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死							
43	3	1	飛曹 行方不明	飛曹 行方不明	飛曹 行方不明							
			山岸昌司	鬼王清三	村上年司							
			飛曹	飛曹	飛曹							
44	1	1	飛曹	飛曹	飛曹							
			加納清二	三宅達彦	安戸孝志							
			飛曹	飛曹	飛曹							
	2	1	1	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死						
				中井留一	多田繁	中野利史						
				飛曹	飛曹	飛曹						
45	2	1	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死							
			山口順	小林芳彦	高橋一文							
			飛曹	飛曹	飛曹							
編	40	2	1	大尉 自爆戦死	飛曹長 自爆戦死	飛曹 自爆戦死						
				警見三郎	岡村健樹	京形京治						
		3	1	1	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死					
					合教博志	秋山弘志	小栗和文					
		4	1	1	飛曹	飛曹	飛曹					
					川島信	中村勇哲	松田憲雄					
	5	2	1	飛曹	中尉	飛曹						
				佐藤重雄	長曾我部明	南木清二助						
	41	2	1	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死						
				竹村章	三森義雄	女由竹利						
				飛曹	飛曹	飛曹						
		3	1	1	飛曹	飛曹	飛曹					
香川定輔					池田弘	加藤伊勢男						
飛曹					飛曹	飛曹						
42	2	1	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死							
			岩上六郎	徳智明	藤田軍平							
			飛曹	飛曹	飛曹							
43	3	1	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死	飛曹 自爆戦死							
			松浦清	佐野剛也	藤木兼雄							
			飛曹	飛曹	飛曹							
44	1	1	大尉									
			宮島尚義									
			飛曹									
			石田正志									
45	2	1	飛曹 行方不明									
			坂行雄									
46	2	1	飛曹									
			堀口春次									

翔鶴飛行機隊戦闘行動調書原文  
南太平洋海戦第一次攻撃隊  
(本文「第六章 南太平洋海戦」参照)

飛行機隊編成調書		所轄 瑞鶴		(行動番號 17.10.26)		戦闘種別		空襲 艦隊					
實施年月日		任務		備考									
昭和17年10月26日		第一次敵機動部隊攻撃		<input type="checkbox"/> 總指揮官 <input type="checkbox"/> 大隊長 <input type="checkbox"/> 中隊長 <input checked="" type="checkbox"/> 小隊長 <input type="checkbox"/> 機長									
大隊	中隊	小隊	機種	主操縦員	主偵察員	先電信員	先搭整員	消耗兵器	被害	効果	果	記事	
編	7	2	2	大尉 高橋 定	飛曹長 岡本 勝美								
				一飛曹 鈴木 敏夫	一飛曹 藤岡 貞丈								
				二飛曹 山中 金三	一飛曹 重 英 勇								
				一飛曹 高山 尚	中尉 米田 信雄								
				一飛曹 西森 俊雄	一飛曹 幸 完 保								
				飛曹 佐藤 茂行	一飛曹 安田 幸一郎								
				一飛曹 大川 董信	一飛曹 前野 廣								
				大尉 津田 俊夫	飛曹少尉 石井 誠助								
				三飛曹 磯 清美	二飛曹 富程 勝久								
				一飛曹 山中 正三	一飛曹 北村 一郎								
				一飛曹 高朝 太郎	中尉 馬田 陽三								
				三飛曹 加藤 求	一飛曹 土屋 嘉彦								
編	7	2	3	三飛曹 江 禮 繁 樹	三飛曹 平山 繁 樹								
				一飛曹 矢野 一	一飛曹 黒木 壽三								
				大尉 石丸 豊	飛曹長 東 藤 一								
				一飛曹 酒巻 秀明	一飛曹 別 吉 利 光								
				一飛曹 南田 光成	一飛曹 横田 益太郎								
				一飛曹 安藤 五郎	飛曹少尉 村井 繁								
				一飛曹 加藤 清武	一飛曹 篠田 博信								
				飛曹長 岡本 清人	一飛曹 勝 見 一								
				一飛曹 宮原 史市	三飛曹 吉永 四郎								
				大尉 白根 斐夫									
				二飛曹 星谷 嘉四郎									
				編	7	2	3	一飛曹 倉田 信高					
飛曹長 小川 末吉													
二飛曹 甲斐 巧													
一飛曹 二村 利次													
一飛曹 横田 龍希													
一飛曹 長 浜 芳和													
飛曹長 古本 賢美	中尉 佐久間 均三	飛曹 大内 公成											
ナシ	ナシ												
ナシ	ナシ												
ナシ	ナシ												
ナシ	ナシ												
ナシ	ナシ												

他隊協同攻撃 撃破2機

撃墜1機

瑞鶴飛行機隊戦闘行動調書原文  
 南太平洋海戦第一次攻撃隊  
 (本文「第六章 南太平洋海戦」参照)

飛行機隊編成調書		所轄	翔鶴	(行動番號 17.10.26)	戦闘種別	短程	空襲	
實施年月日		任務		17.10.26				
昭和 17年 10月 26日		第 二 次 敵航空母艦攻撃		瑞鶴第三次攻撃 = 翔鶴の fbx1, fbx2 参加 = 大石 - 瑞鶴行動調書参照				
大隊	中隊	小隊	機番	機種	主副操縦	主副偵察	先電信士	
編	攻	20	2	1	少佐 自爆戦死	飛特少尉 自爆戦死		
					関 衛	中 定次郎		
					一飛曹	一飛曹		
					上島 初	今田 徹		
					一飛曹 自爆戦死	一飛曹 自爆戦死		
					3	岩永 吉雄	板谷 敏見	
					一飛曹	大尉		
					古田 清人	有馬 敏一		
					一飛曹	一飛曹		
					2	秋元 保	小坂 博司	
					一飛曹 自爆戦死	一飛曹 自爆戦死		
					0	田中 武三	米多 芳元	
一飛曹	中尉							
22	河野 康士	齊藤 舜一						
一飛曹 自爆戦死	一飛曹 自爆戦死							
2	菊地 五一	土屋 亮六						
一飛曹	一飛曹							
23	田中 善治	甲田 力						
一飛曹 自爆戦死	一飛曹 自爆戦死							
2	菅野 正生	山内 博						
大尉 自爆戦死	大尉 自爆戦死							
24	山田 昌平	前川 賢次						
一飛曹	一飛曹							
2	望月 伊作	長谷川 菊助						
一飛曹 自爆戦死	中尉 自爆戦死							
25	前川 茂治	宮内 治雄						
一飛曹	飛曹							
26	高野 秀雄	清水 竹志						
一飛曹 自爆戦死	一飛曹 自爆戦死							
2	根本 義雄	安 主人						
大尉	一飛曹							
27	吉本 一男	土屋 睦和						
一飛曹 自爆戦死	一飛曹 自爆戦死							
2	鈴木 要	柴野 文雄						
一飛曹	飛特少尉							
28	田中 義春	齊藤 千秋						
一飛曹 自爆戦死	一飛曹 自爆戦死							
2	谷 真 平	弘 兼 五 一						
大尉								
29	新郷 英城							
一飛曹								
30	谷口 正史							
一飛曹								
31	鈴木 泰三							
一飛曹								
32	松田 二郎							
一飛曹								
33	佐味 原 正 史							
一飛曹								

敵隊同襲撃 撃沈/隻 撃破/隻

25機通x/3  
自爆機x/0  
不時着機x/2  
被弾機x/3  
戦死x/20  
敵PBY5-1機包圍(不沈)

翔鶴飛行機隊戦闘行動調書原文  
南太平洋海戦第二次攻撃隊  
(本文「第六章 南太平洋海戦」参照)

飛行機隊編成調書				所轄	瑞鶴	(行動番號 17.10.26 )	戦闘種別	空襲	雷撃								
實施年月日		任務			備考												
昭和 17年 10月 26日		第一次敵機動部隊攻撃			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>								
大隊	中隊	小隊	機番號	機種	主操縦員	主偵察員	先電信員	先搭整員	消耗兵器	被害	効果	結果	記事				
編 攻 隊	4	2	/	/	飛機長 戦死	大尉 戦死	飛曹 戦死	飛曹 戦死									
					湯浅 只雄	今島 滋一	中島 光昇										
					飛曹	飛曹	飛曹										
					河田 忠義	深海 富貴	五味 茂雄										
					飛曹 戦死	飛曹 戦死	飛曹 戦死										
					稻垣 一道	川畑 小吉	五馬 茂										
					中尉 戦死	飛曹 戦死	飛曹 戦死										
					伊東 徹	大谷 良一	吉村 武治										
					飛曹 戦死	飛曹 戦死	飛曹 戦死										
					尾 徳治	水島 正芳	林 茂文										
飛曹 戦死	飛曹 戦死	飛曹 戦死															
加藤 輝雄	佐藤 正福	辻 四郎															
飛曹 戦死	飛曹 戦死	飛曹 戦死															
若原 久	鈴木 仲彦	星野 精一															
飛曹	飛曹	飛曹															
真山 巖	湯川 辰雄	鈴木 三郎															
大尉 戦死	飛曹	飛曹															
橋本 正幸	山下 輝	福島 儀男															
飛曹	飛曹	飛曹															
冠谷 悟	吉井 四郎	井 博															
飛曹 戦死	飛曹 戦死	飛曹 戦死															
武井 清美	木口 資雄	野村 治															
飛曹	飛曹	飛曹															
佐藤 粉	金田 敦正	堂前 清作															
飛曹	飛曹	飛曹															
山田 一郎	田村 平治	森下 昇															
飛曹 戦死	飛曹 戦死	飛曹 戦死															
大場 林蔵	山内 一夫	原 明															
飛曹	飛曹	飛曹															
八重樫 春造	菊地 高助	山崎 春正															
飛曹 戦死	飛曹 戦死	飛曹 戦死															
牟田 憲一郎	山内 敏照	伊藤 正雄															
飛曹	飛曹	飛曹															
大塚 幸雄	鈴木 直一郎	坂下 一男															
飛曹	飛曹	飛曹															
重見 謙馬																	
飛曹	飛曹	飛曹															
大石 芳男																	
飛曹	飛曹	飛曹															
大 茂																	
飛曹	飛曹	飛曹															
土屋 静雄																	

撃沈 2  
撃破 1  
撃墜 1  
機 1

瑞鶴飛行機隊戦闘行動調書原文  
 南太平洋海戦第二次攻撃隊  
 (本文「第六章 南太平洋海戦」参照)

## 序

戦史室が創設されてから十九年、既刊戦史叢書に続いて今回、第八十三回配本として本書が刊行されることとなった。本書編纂さんに当たっては、自衛隊の教育又は研究の資とすることを主目的とし、兼ねて一般の利用にも配慮した。

終戦時において大量の史料が消滅又は散逸し、そのうえ戦史室の開設まで十年間の空白を生じたために、戦史編纂の困難さは既往内外のそれに比して筆舌に尽くし難いものがあつた。幸いにも関係各方面の理解と多数歴戦者各位の熱誠あふれる協力によってこの刊行を実現し得たものであり、ここに改めて謝意を表する次第である。

記述に当たっては、紙面の関係などから割愛したものも少なくない。また今後資料の収集によって、加筆修正を必要とするものがあることも予想される。引き続き部内外の協力と叱正を懇願してやまない。

本書は、先に当室において戦史編纂官角田求士、三澤裕、關清榮がそれぞれ分担研究した成果をもとに、戦史編纂官竹下高見が更に調査研究のうえ執筆したものである。

なお、本書記述の内容に関する責任は、戦史室長と執筆者のみにあることを特に付言する。

昭和五十年七月

既刊・戦史叢書 (頭書の数字は配本番号、※印は近刊分)

- (1) マレー進取作戦
- (2) 比島攻略作戦
- (3) 蘭印攻略作戦
- (4) 一号(1) 河南の会戦
- (5) ビルマ攻略作戦
- (6) 中部 陸軍作戦(1) マリアナ
- (7) 東部ニューギニア方面 陸軍航空作戦
- (8) 大本營陸軍部(1) 昭和十五年五月まで
- (9) 陸軍軍需動員(1) 計画
- (10) ハワイ作戦
- (11) 沖繩方面陸軍作戦
- (12) マリアナ沖海戦
- (13) 中部太平洋陸軍作戦(2)
- (14) 南太平洋陸軍作戦(1)
- (15) インパール作戦、ビルマの防衛
- (16) 一号(2) 湖南の会戦
- (17) 沖繩方面海軍作戦
- (18) 北支の治安戦(1)
- (19) 本土防空作戦
- (20) 大本營陸軍部(2) 昭和十六年十二月まで
- (21) 北東方面陸軍作戦(1) アンツ
- (22) 西部ニューギニア方面 陸軍航空作戦
- (23) 豪北方面陸軍作戦
- (24) 比島方面海軍進攻作戦
- (25) イラワジ会戦、ビルマ防衛の建設
- (26) 蘭印・ベトナム方面海軍進攻作戦
- (27) 關東軍(1) 対ソ戦備、ノモンハン事件
- (28) 南太平洋陸軍作戦(2)
- (29) 北東方面海軍作戦
- (30) 一号(3) 廣西の会戦
- (31) 海軍軍戦備(1) 昭和十六年十一月まで
- (32) シツタン・明号作戦
- (33) 陸軍軍需動員(2) 実施
- (34) 南方進攻陸軍航空作戦
- (35) 大本營陸軍部(3) 昭和十七年四月まで
- (36) 沖繩・臺灣 陸軍航空作戦
- (37) 海軍捷号作戦(1) 臺灣沖航
- (38) 中部方面海軍作戦(1) 昭和十七年五月まで
- (39) 大本營海軍部聯合艦隊(4)
- (40) 南太平洋陸軍作戦(3) ムンダ
- (41) 捷号陸軍作戦(1) レイテ
- (42) 昭和二十年の支那派遣軍(1) 三月まで
- (43) ミッドウエー海戦
- (44) 北東方面陸軍作戦(2)
- (45) 大本營海軍部聯合艦隊(6)
- (46) 海上護衛戦
- (47) 香港・長沙作戦
- (48) 比島捷号陸軍航空作戦
- (49) 南東方面海軍作戦(1)
- (50) 北支の治安戦(2)
- (51) 本土決戦準備(1) 關東の防衛
- (52) 陸軍の軍備と運用(1) 昭和十三年初期まで
- (53) 滿洲方面陸軍航空作戦
- (54) 南西方面海軍作戦(第二戦)
- (55) 昭和十七年の支那派遣軍
- (56) 海軍捷号作戦(2) フィリピン沖
- (57) 本土決戦準備(2) 九州の防衛
- (58) 南太平洋陸軍作戦(4)
- (59) 大本營陸軍部(4) 昭和十七年八月まで
- (60) 捷号陸軍作戦(2) ソロン
- (61) ビルマ・第三航空軍の作戦
- (62) 中部方面海軍作戦(2) 昭和十七年六月以降
- (63) 大本營陸軍部(5) 昭和十七年十二月まで
- (64) 昭和二十年の支那派遣軍(2) 終戦まで
- (65) 大本營 大東亞戦争開戦経緯(1)
- (66) 大本營陸軍部(6) 昭和十八年六月まで
- (67) 大本營陸軍部(7) 昭和十八年十二月まで
- (68) 大本營 大東亞戦争開戦経緯(2)
- (69) 大本營 大東亞戦争開戦経緯(3)
- (70) 大本營 大東亞戦争開戦経緯(4)
- (71) 大本營海軍部聯合艦隊(5)
- (72) 中國方面海軍作戦(1) 昭和十三年三月まで
- (73) 關東軍(2) 關東軍の対ソ戦
- (74) 中國方面陸軍航空作戦
- (75) 大本營陸軍部(8) 昭和十九年七月まで
- (76) 大本營 大東亞戦争開戦経緯(5)
- (77) 大本營海軍部聯合艦隊(3) 昭和十八年二月まで
- (78) 陸軍の軍備と運用(2) 昭和十七年前期まで
- (79) 中國方面海軍作戦(2) 昭和十三年四月以降
- 大本營海軍部聯合艦隊(2) 昭和十七年六月まで
- 大本營陸軍部(9) 昭和二十年一月まで
- 大本營陸軍部(10) 昭和二十年八月まで
- 南太平洋陸軍作戦(5) アイタベンリアカラバウル
- 本土方面海軍作戦
- 支那事変陸軍作戦(1) 昭和十三年一月まで
- 南東方面海軍作戦(2) 力島採取まで
- 陸軍兵器の開発・生産・補給
- 海軍軍戦備(2) 以後



## まえがき

昭和十七年八月七日、連合軍がガダルカナル島（以下ガ島と略称）に來攻するや、我が聯合艦隊は決戦兵力を南東方面に集中し、陸軍と協力してガ島奪回作戰を開始した。連合軍もガ島確保のため航空兵力を急速進出させるとともに、米艦隊主力を南東方面に集中した。このため同方面は日米両海軍の決戦場となり、ガ島の争奪をめぐって多くの海空戦が相次いで勃発した。これら海空戦を通じて、我が海軍は米海軍に大きな打撃を与えたが我もまた艦艇、航空機に重大な損害を受けた。

ガ島奪回作戰は航空消耗戦であり、補給戦であった。ガ島に敵航空兵力が進出するや、基地航空部隊は直ちに攻撃を開始した。しかし中部ソロモンに航空基地建設を怠った戦略的不利、航空基地設営能力の低さ、航空器材及び搭乗員の補充難等のために、ガ島方面の制空権を奪取できなかつたばかりでなく、多くの飛行機と搭乗員を失って、我が航空戦力は急速に低下していった。

ガ島方面の制空権が敵手にあつたために、我が軍のガ島への兵力増援は困難を極めた。連合軍は白昼堂々と輸送船を連ねて大量の輸送を行っているのに対し、我が軍は敵機の攻撃下に、駆逐艦による夜間揚陸に頼らざるを得なかつたのである。この増援部隊の上空警戒に当たつたのは我が水上機隊であった。水上機隊は、劣性能にもかかわらず身を挺して敵機の攻撃を阻止し、増援部隊の被害を最小限度に食い止めた。

ガ島陸上においては、九月中旬及び十月下旬の二回、飛行場に対する攻撃を実施した。しかし二回共、敵兵力、戦力の下算、我が戦力の過信が因となつて兵力は小出しであり、前記輸送の困難から重火器等が不足した。地勢の研究も不足で、攻撃はいずれも失敗に終わった。

事態の重大性を悟つた大本營は、一月下旬を目途に再攻撃の方針を決定し、ソロモン諸島に航空基地を進め、陸軍

航空兵力をも投入してガ島の敵航空兵力を制圧し、大兵力のガ島への船団輸送を企図した。しかし、一層強化された敵海・空兵力によってガ島への船団輸送の見通しが立たなかったばかりでなく、十二月中旬ころには駆逐艦による輸送さえも困難となった。

一方、ニューギニア方面においては、我が軍は糧食・弾薬等の不足からポートモレスビー陸路進撃を中止し、九月下旬ころからブナに向け後退中であつた。これを追撃しつつあつた連合軍は十一月中旬、海路ブナに上陸してきた。ブナを失えば、南東方面の我が戦略拠点ラバウルの防衛が困難となることは明らかであつた。このためガ島輸送を中止し、ブナ対にする駆逐艦輸送を開始したが、この方面でも敵機の攻撃を受けて駆逐艦の被害が続出し、増援輸送は困難となった。

かくして、我が軍はガ島・ブナ両方面共に撤収した。この間我が軍は、十月下旬には米太平洋艦隊司令長官をして「現在我々はガ島付近の海域を支配することは困難なように思われる。従つてガ島の我が陣地への補給は非常に大きな困難によつてのみ確保されよう。事態は絶望的ではないが確かに危機に瀕<sup>ひん</sup>している」と言わしめたほど、連合軍を撤退一步前まで追い込んだ。しかしついに自らが力尽きて撤収せざるを得なかつたのである。

本書においては、基地航空部隊の作戦、駆逐艦等によるガ島増援輸送、サボ島沖海戦、南太平洋海戦、第三次ソロモン海戦、ルンガ沖夜戦、レンネル島沖海戦を重点として、撤収に至るまでの海軍作戦の経過を記述した。

## 凡例

- 一 日時は日本中央標準(9h)時を使用した。
- 二 時刻は二十四時間制とし、午後三時四十五分は一五四五で表した。
- 三 長さは籽(キロメートル)、米(メートル)、糎(センチメートル)、耗(ミリメートル)を使用した。また一部には吋(インチ)を使用した。
- 四 重さは珎(キログラム)、噸(トン)を使用した。なお一部には封度(ポンド)を使用した。
- 五 海上距離は哩(ノーチカルマイル)、陸上距離は哩(マイル)、艦船、航空機の速力は節(ノット)を使用した。一節は一時間に一哩の速力である。
- 六 艦船部隊等の固有名詞には、当時使われていた漢字を使用した。なお固有名詞中、特に錯誤の虞がない限り「海軍」の文字を省いた(千歳航空隊等)。
- 七 ( ) の数字は資料の出所を示し巻末に一括掲記した。
- 八 軍隊区分等に使用した部隊等の略符(記)号は次表のとおりである。

## 海軍略符(記)号一覽表

略符(記)号	部 隊 名	略符(記)号	部 隊 名
AdB	前進部隊	Mg	機 銃
AF	航空艦隊	N	連 隊
aBg	特別根拠地隊	S	戰 隊
ag	特設砲艇	Sd	水雷戰隊
Bg	根拠地隊	Sf	航空戰隊
cg	通信隊	sg	潜水隊
chg	駆潜隊	SiB	支援部隊
ch	駆潜艇	Ss	潜水戰隊
D	小 隊	T	輸送船
d	駆逐艦	w	掃海艇
dg	駆逐隊	wg	掃海隊
F	艦 隊	⊕	航空母艦
f <sup>b</sup>	艦上爆撃機	○	水上艦艇(空母を除く)
f <sup>c</sup>	艦上戦闘機	△	潜水艦
f <sup>d</sup>	飛行艇	Υ	飛行機
f <sup>g</sup>	航空隊	ϕ	飛行艇
f <sup>lo</sup>	陸上攻撃機	□	司令長官
f <sup>o</sup>	艦上攻撃機	▷	司令官
f <sup>sr</sup>	水上偵察機		
G	砲 艦		
Gcg	聯合通信隊		
Gg	砲艦隊		
HA	高角砲		
KdB	機動部隊		
KEg	海上護衛隊		

# 目次

序

まえがき・凡例

## 第一編 ガ島奪回作戦

### 第一章 川口支隊のガ島輸送

一 輸送開始前の南東方面の情勢……………一

八月上旬の南東方面の我が軍の作戦 (1)

ガ島奪回作戦の開始 (3)

船団によるガ島輸送の挫折 (5)

八月下旬の南東方面の我が軍の状況 (6)

連合軍の状況 (11)

一一 船団輸送挫折後の作戦指導……………一二

聯合艦隊 (12)

南東方面部隊及び第十七軍 (15)

大本営 (17)

陸海軍中央協定の改定 (19)

三 駆逐艦輸送の開始(八月下旬)……………二一

輸送開始と外南洋部隊の延期命令 (21)

外南洋部隊の増援輸送計画 (23)

第一次輸送の挫折 (24)

八月二十九日 (28)

増援部隊指揮官の更迭 (31)

八月三十日 (33)

八月三十一日 (34)

四 基地航空部隊の作戦(八月下旬)……………三五

基地航空兵力の南東方面への集中 (35)

航空基地の状況 (37)	九月四日 (53)
作戦計画 (39)	九月五日 (55)
ガ島攻撃 (40)	川口支隊の舟艇機動 (56)
東部ニューギニア方面の航空戦 (43)	九月七日 (59)
五 R方面航空部隊の作戦(九月上旬)……四五	七 支援部隊及び先遣部隊の作戦 (九月上旬)……五九
水上機母艦のショートランド集中 (45)	支援部隊 (60)
R方面航空部隊の新編 (46)	先遣部隊 (62)
レカタ基地の設置 (49)	八 連合軍の作戦……六五
作戦の実施 (50)	米国陸海軍の作戦指導 (65)
六 増援部隊の輸送作戦(九月上旬)……五一	ガ島の航空戦 (67)
九月一日 (51)	ガ島海域の状況 (69)
九月二日 (52)	
第二章 九月中旬のガ島飛行場攻撃……七一	
一 攻撃準備……七一	支援部隊 (84)
現地陸海軍協定 (71)	先遣部隊 (87)
聯合艦隊作戦命令 (73)	川口支隊 (88)
大本営陸海軍部兩次長の南東方面出張 (76)	攻撃開始日の延期と繰り上げ (89)
基地航空部隊 (78)	二 敵のタイボ岬上陸……九一
外南洋部隊 (82)	三 基地航空部隊の作戦(九月中旬)……九三

九日～十二日（ガ島攻撃と哨戒）	（93）		
十三日（ガ島陸戦状況の偵察）	（95）		
十四日～十五日（攻撃失敗の確認）	（98）		
四 外南洋部隊（R方面航空部隊を除く）の作戦……………	一〇二		
青葉支隊第二次輸送と外南洋部隊の出撃	（102）		
奇襲隊のガ島敵陣地砲撃	（103）		
青葉支隊第三次輸送	（104）		
五 R方面航空部隊の作戦……………	一〇七		
R方面航空部隊作戦命令	（107）		
ガ島偵察とガ島攻撃	（108）		
インディスペンサブル礁を基地とする			
第三章 第二師団のガ島輸送その一（九月）……………	一二八		
一 川口支隊攻撃失敗後の作戦指導……………	一二八		
聯合艦隊	（128）		
第十七軍	（129）		
陸海軍現地協定	（121）		
大本営陸海軍部	（132）		
陸海軍中央協定の改定	（134）		
二 東部ニューギニア方面情勢の悪化……………	（135）		
二 九月中・下旬のガ島輸送……………	一三七		
十六日～十九日	（137）		
「日進」による重火器輸送の中止	（139）		
二十日～二十四日	（141）		
三 支援部隊及び先遣部隊の作戦……………	一二五		
七 支援部隊及び先遣部隊の作戦……………	一一六		
前進部隊及び機動部隊	（116）		
東方哨戒隊	（120）		
ヌデニ島敵飛行艇基地攻撃	（121）		
先遣部隊の作戦（ワスプ撃沈）	（122）		
八 米海上部隊の作戦……………	一一二		
六 川口支隊の飛行場攻撃……………	一一二		
十二日の攻撃	（112）		
十三日の攻撃	（115）		
後退転進	（115）		
索敵	（110）		

(九月中・下旬)……………一四三

支援部隊 (143)

先遣部隊 (144)

四 基地航空部隊の作戦

(九月中・下旬)……………一四六

航空兵力の状況 (146)

敵機のラバウル方面来襲 (147)

第四章 第二師団のガ島輸送その二(十月)……………一六五

一 輸送計画の改正と

聯合艦隊司令部の作戦指導……………一六五

輸送計画の改正 (165)

高速船団輸送の決定 (166)

聯合艦隊作戦命令 (168)

二 十月上旬のガ島輸送……………一七二

基地航空部隊のガ島攻撃 (173)

R方面航空部隊の上空警戒 (176)

輸送再開 (177)

三日の「日進」輸送 (178)

四日～六日の輸送 (181)

ガ島攻撃(被害の増大) (148)

ブイン基地整備 (151)

五 外南洋部隊の作戦(九月中・下旬)……………一五四

R方面航空部隊 (154)

R方面防備部隊 (158)

その後のガ島の状況 (160)

陸軍兵力の南東方面への輸送(沖輸送) (162)

八日の「日進」輸送 (182)

挺身攻撃隊の輸送(蟻輸送) (183)

輸送計画の再検討と九日～十日の輸送 (186)

三 サボ島沖海戦……………一八八

基地航空部隊の攻撃 (189)

「日進、千歳」の輸送 (190)

第六戦隊の戦闘 (192)

米艦隊の戦闘 (195)

戦果及び被害 (198)

「叢雲、夏雲」の喪失 (200)

四 高速船団輸送……………二〇二



支援部隊のトラック出撃 (202)

外南洋部隊等の作戦準備とX日の決定 (205)

第三戦隊のガ島飛行場射撃 (208)

船団のガ島入泊 (215)

五 十月中旬のガ島輸送 ……………二二二

輸送計画の変更 (222)

十七日の輸送 (224)

十九日の輸送 (225)

増援輸送の成果 (226)

六 支援部隊及び先遣部隊の作戦

(十月中旬)……………二二六

前進部隊の作戦 (226)

機動部隊の敵輸送船攻撃 (229)

前進部隊のルンガ泊地攻撃 (231)

潜水部隊の作戦 (233)

第五章 十月下旬のガ島総攻撃……………二三八

一 第十七軍の攻撃準備 ……………二三八

初期の攻撃計画 (238)

迂回作戦の決定 (239)

攻撃計画 (240)

二 聯合艦隊の作戦準備 ……………二四一

基地航空部隊のガ島飛行場制圧 (241)

Y日の決定と聯合艦隊司令部の作戦指導 (243)

各部隊の作戦命令 (246)

攻撃開始日の延期と再延期 (249)

三 十月中旬の連合軍の作戦……………二五二

ガ島に対する作戦指導 (252)

南太平洋部隊指揮官の更迭 (253)

四 ガ島における陸上戦闘……………二五五

五 外南洋部隊の総攻撃策応……………二五七

突撃隊(第六駆逐隊)のルンガ泊地攻撃 (257)

「由良」の沈没 (260)

R方面航空部隊 (262)

六 基地航空部隊の作戦

(哨戒と零戦の戦果、被害)……………二六三

七 総攻撃失敗の原因……………二六六